

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	協働による元気な里山づくり推進事業
対象地域	茨城県常陸太田市里川地区
活動概要	<p>・4集落, 47世帯, 人口165人から成る里川地区は, 福島県境に接し, 国道の通る平野部から約5km離れた山間地にある。本地区には小学生が1人もいないなど, 活気が失われつつあることが最大の課題であり, 現在は34%の高齢化率は今後さらに高まると見込まれることから, 地域住民が元気な現時点から, 集落の維持・存続に向けた取組みを主体的に展開していくことが重要となっている。</p> <p>・本地区は, 昨年度, 国土施策創発調査「維持・存続が危ぶまれる集落の新たな地域運営と資源活用に関する方策検討調査」において, 茨城県におけるフィールドワークの地として協力し, 一連のワークショップを通して, 資源発掘～将来構想～行動計画の策定を行った経緯があり, 今年度以降も, 当該調査を通して高まった地域住民の機運を活かし, 町会が中心となって主体的に各種事業に取り組もうとしている。</p> <p>・このため, 集落住民の主体性を活かしながら, 町会が主体となり, 行政や支援団体等との連携により, 集落環境の維持・改善に取り組むものである。特に, 東京から2時間という地理的特性を最大限に活かし, 首都圏に住む田舎暮らしやその環境に関心のある市民等との交流と参画を通して, 耕作放棄地での営農や管理放棄した山林の手入れといった直接的な環境維持・改善に取り組む, 住民の誇りと人的つながりの再構築を通して, 元気な里川の復活と持続ある地域・集落運営を目指す。</p>
今年度の主な取組	<p>1. 集落住民の機運醸成・情報共有化</p> <p>①地域の伝統・文化継承「里川講」の実施</p> <p>・地域の「生き字引」であるお年寄りを講師とした伝統・文化継承講座による地域の担い手育成</p> <p>2. 都市住民との交流推進</p> <p>①田舎暮らしやその生活に関心のある周辺都市住民との交流: 住民によるおもてなし交流事業</p> <p>・有名な桜の見学者やプラトーさとみ注利用者等に集落への興味を持ってもらいファンを拡大</p> <p>②集落出身者・縁故者との交流: 地域資源発表会・交流会</p> <p>・新たな集落づくりのマンパワーとして継続的・主体的な参画を促進</p> <p>3. 都市住民や近隣住民等との協働による集落環境維持活動の実施</p> <p>・都市住民や近隣住民等との協働による耕作放棄地の利活用(交通費の確保程度の資金確保による継続性の確立)</p> <p>・管理の行き届かない山林における間伐等の管理支援</p> <p>・桜の植樹等, シンボルロードの整備への参画</p> <p>・里川地区のシンボル景観・憩いの場ともなりうる(仮称)里川奥入瀬溪谷の環境整備への参画</p> <p>4. 年間の取組みの評価と次年度以降の取組みの具体化の検討</p>

活動結果	<p>町会を主体とした活動についての機運が高まり、数十年途絶えてた地域の祭りである鳥追いの復活、今後の里川町のシンボルとなりうる桜の植樹や、憩いの場である遊歩道の整備など、様々な事業を通して、里川町に元気が出てきた。地域の課題に対する取り組みは、本事業を契機として各部会が組織され、地域の課題や希望について話し合い、再確認・再発見していくことを通して、今までは、希望はあってもなかなか取り組むことが出来なかったことがらでも、地域の人たちが、自ら多様な主体と協働して、楽しみながら取り組むことが出来るようになってきた。里川講に関しては、お年寄りと若い世代との交流となるだけではなく、お年寄り同士が互いに行き来し、コミュニケーションをする機会としても機能しており、コミュニティ活動が活発化した。また、地域の住人からも、遊歩道近辺の景観の美しさについて初めて気がついた、というような感想があったり、自ら架けた橋や、苦勞して植えた桜などに誇りと愛着を持ち、これからも自らの住む地域を、より住みよく、より楽しくしていこうという気概が強まっている。</p>
当初予想していなかった効果	<p>鳥追いの復活には60名近い人たちが集まり、人口が165人の里川町会においては、その3分の1以上の人が集まったことになる。その他、各部会の事業にも多くの地域住民の参加があった。また、地域の勉強会である里川林業教室との連携も想定していなかったことだった。これには、町会の呼びかけの努力に加え、「適材適所」とも言える部会メンバーの配員と、また、人が集う「核」となるメンバーを多く有していたことが要因の一つだと考えられる。里川町会の縦の繋がり、横の繋がり等、日ごろの地域住民の密接な関係が多くの人を巻き込むことにつながった。参加している住民一人一人のモチベーションが上がってきており、イベントや事業に参加するだけでなく、例えば間伐の調査や捨て切りの確認を自発的に行うようになったり、来年度行いたいことを発案したりする等、町会長や部会長などの先導者についていっただけではなく、自発的に取り組むようになってきている。数々のイベントや、事業への取組具合、講習会等を経て、参加者同士刺激を受けあっていることが大きな要因だと考えられる。</p>
実施状況(写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>○桜植樹事業の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>○繭玉作りの様子</p> </div> </div>
応募団体名	里川町会
リンク	
部局／担当者名	町会長 荷見 誠
連絡先	0294-82-4001
推薦市町村名	茨城県常陸太田市